



Title	シンポジウム「秋田からのデザイン研究」
Author(s)	天貝, 義教
Citation	デザイン理論. 2018, 71, p. 49-49
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67727
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

シンポジウム

「秋田からのデザイン研究」

司 会：天貝義教／秋田公立美術大学

パネリスト：遠藤敏明／秋田大学

山内貴博／秋田公立美術大学

落合里麻／秋田公立美術大学

天貝義教／秋田公立美術大学

シンポジウム趣旨

明治維新以降、1870年代後半の工部美術学校の設立にはじまり、1890年代末から1900年代の初頭にかけて東京美術学校、工業教員養成所・東京工業学校、京都高等工芸学校など、東京ならびに京都において開始された日本の図案ならびに意匠に関する高等教育と研究は、2000年代の今日では、デザインの高等教育と研究として北海道から沖縄県にいたるまで日本全国各地域においてすすめられています。第59回大会の開催地である秋田市についてみても、秋田大学ならびに秋田公立美術大学において、それぞれの独自性をもちながら、デザインに関する多様な教育と研究がおこなわれています。

今回のシンポジウムでは、そのなかから、とく手仕事・環境・歴史などに焦点をあて、広い意味でデザインの研究にたずさわっているかたがたに、その教育と研究の特色を紹介していただくこととしました。発表者のテーマは、「スロイド」「景観デザイン」「乗物」「デザイン史」など多岐にわたっています。しかしながら、それぞれの話題の根底には、日々の生活において、手仕事をいかに価値づけるのか、環境をいかに形成するのか、歴史をどのように理解するのか、という共通した問題があると思われる。

いうまでもなく今日の社会は、きわめて高度に発達したニュー・メディアなしには成立しえないものとなっており、こうした現代社会の生活における個々の問題の解決や価値の創造に直面するデザインには、高度に分化してゆくプロセスと統合してゆくプロセスとを関係づけるアプローチが求められていると考えられます。手仕事・環境・歴史に焦点をあてた今回のシンポジウムがそうしたアプローチを具体化してゆくためのひとつの議論の場、あるいは契機となれば幸いです。

(天貝 義教 秋田公立美術大学)